



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

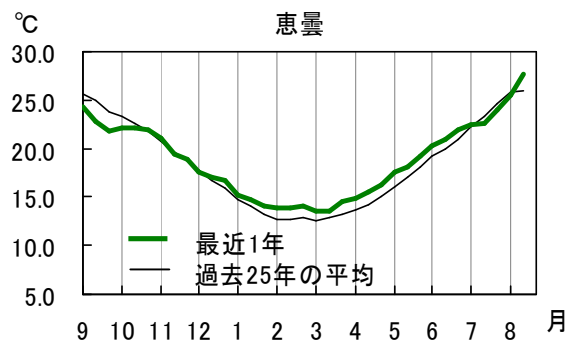
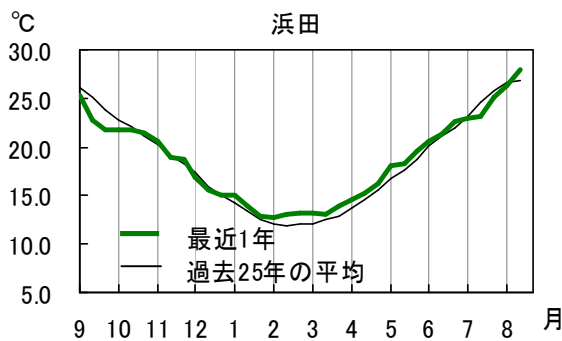
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《7-8月の海況》

7月	月平均	平年差	評価
浜田	23.7℃	-0.8℃	やや低め
恵曇	23.0℃	-0.4℃	平年並み

沿岸定地水温は、7月は浜田は平年よりやや低め、恵曇は平年並みとなりました。8月に入ってから浜田、恵曇とも平年よりやや高めに推移しています。



《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

各地区ともマアジ主体の漁況でした。浜田では漁獲量は平年並み、漁獲金額は平年の1.2倍でした。浦郷では漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.7倍、1.2倍でした。西郷ではマアジの他、ブリ、マイワシなどの好漁により漁獲量、金額はそれぞれ平年の2.1倍、1.7倍と好調に推移しました。

【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではスルメイカ、ケンサキイカ中心の漁況で、前月と同様に漁獲量は平年の7割と低調でした。西郷(属人5トン以上)も浜田と同様にスルメイカ、ケンサキイカ中心の漁況で、漁獲量は平年の5割と低調でした。

【シイラ漬け漁業】

石見地区ではヒラマサの来遊が少なかったものの、シイラのまとまった漁があり、漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.5倍、1.2倍でした。

【パイかご漁業】

石見・出雲地区のパイかごによるエッチェウパイの漁獲量は平年(過去5年平均)の1.2倍と好調でしたが、価格安のため金額では平年並となっています。大型貝が多く漁獲されています。

【定置網漁業】

出雲地区ではマアジ、サワラ、トビウオ類、ブリなどが多く漁獲され、漁獲量は平年の1.5倍となりました。隠岐地区ではマアジが主体で漁獲量は平年の2.3倍と好調でした。石見地区ではマアジ、ケンサキイカなどが漁獲され、漁獲量は平年の1.6倍となりました。

【釣・縄】

石見地区ではこの時期の主力であるケンサキイカが平年の3割と不漁であったことなどから漁獲量は平年の半分と低調でした。出雲地区でも石見地区と同様にケンサキイカが低調であったため漁獲量は平年の7割でした。隠岐地区ではキダイ、カサゴ・メバル類などを主体に、漁獲量は平年並みでした。

大型クラゲ情報

沖合底びきで対馬東沖～見島西にかけて多量の入網が報告されています。県内沿岸の定置網ではまだ数個単位の入網が報告されているだけですが、今後注意が必要です。試験船での調査ではクラゲは沖合域に多く分布しているようです。

【平成19年7月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ	350トン	82	101	7トン	87	100	○
	西郷	マアジ、マイワシ、ブリ	3,532トン	374	212	34トン	284	205	◎
	浦郷	マアジ、マイワシ	2,060トン	371	171	26トン	285	190	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	54トン	178	73	190kg	140	119	◎
	西郷	スルメイカ、ケンサキイカ	19トン	36	48	137kg	64	95	○
シイラ漬け	和江	シイラ、ヒラマサ	186トン	115	148	1,918kg	101	123	◎
バイかご	久手	エッチュウバイ	28トン	99	135	716kg	99	131	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ、ウルメイワシ	35トン	107	98	1414kg	104	89	○
	美保関	マアジ、サワラ、カタクチイワシ	120トン	139	220	9146kg	143	194	◎
	浦郷	マアジ	52トン	205	223	1808kg	191	174	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、イサキ、アマダイ	11トン	76	50	23kg	103	61	▲
	大社	ケンサキイカ、カサゴ・メバル類、キジハタ	7トン	57	69	13kg	85	90	○
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ、キダイ	17トン	91	75	37kg	126	105	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下